

岡部定一郎「福岡城寸描」(4)

1. 福岡城の構え



福岡城の総構えは！！

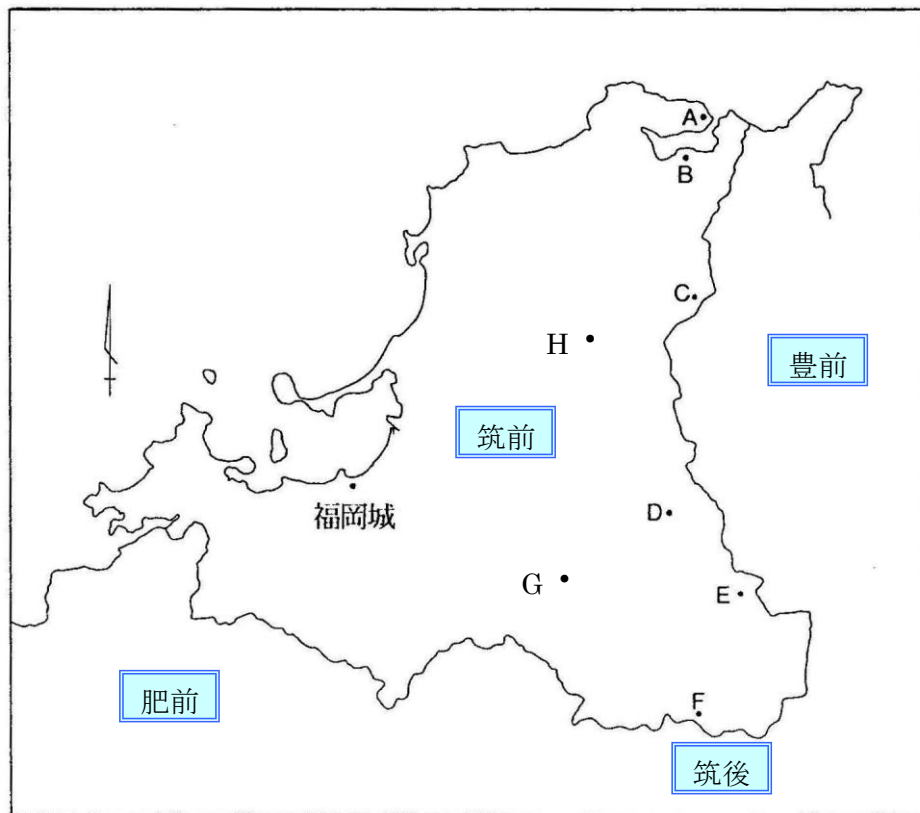
慶長年間(今から400年前の頃)、今ある「福岡」の基点、博多湾のほぼ中心にあたる大休連山の岬福崎の地に、攻めるに攻め難く、暮らしに便利な博多町人と共に生活できる楽市楽座、共存共栄の城郭を造り、おおよそ7か年の歳月をかけて完成した。

寸描(1)で福岡城の枠組みについては概要を述べているが、黒田53万3千石の全領地15郡を守る総構えは更に広大なもので、国境に沿って六つの端城を設け、親藩兄弟の城を更に二つ設けている。(資料参照)

- 福岡本城 黒田長政(初代) 現福岡市中央区
 - 端城(黒田家譜による)
 - A 若松城(三宅若狭)〈3,000石〉現北九州市洞海湾内
 - B 黒崎城(井上周防)〈17,000石〉現北九州市八幡西区屋敷
 - C 高取城(母里太兵衛)〈16,000石〉現直方市永満寺
 - D 大隅城(後藤又兵衛)〈14,000石〉現嘉麻市中益
 - E 小石原城(黒田六郎右衛門)〈3,000石〉現朝倉郡東峰村小石原
 - F 左右良城(栗山備後)〈15,000石〉現朝倉市杷木
 - その他親藩の城郭として
 - 秋月城(黒田長興)〈50,000石〉現朝倉市秋月
- 後に加えて
- 東蓮寺城(黒田高政)〈40,000石〉現直方市殿町 が生まれる。

以上、筑前領の国境に備えたお城も、元和元年の徳川家の一国一城令により、館構えになって大きく変わる。

資料



- A : 若松城
- B : 黒崎城
- C : 高取城(鷹取山城)
- D : 大隅城(益富城)
- E : 小石原成(松尾城)
- F : 左右良城
- G : 秋月城
- H : 東蓮寺城